賞与引当金	166		
その他流動負債	14		
流動負債合計		56,439	
負債合計			137,862
純資産の部			
Ⅰ　資本金			
政府出資金	284,638		
資本金合計		284,638	
Ⅱ　資本剰余金			
資本剰余金	81,625		
損益外減価償却累計額（－）	△　64,615		
損益外減損損失累計額（－）	△　9		
損益外有価証券損益累計額（その他）（－）	△　18		
損益外利息費用累計額（－）	△　17		
資本剰余金合計		16,964	
Ⅲ　利益剰余金			
前中期目標期間繰越積立金	23,723		
目的積立金	141		
積立金	13,487		
当期未処分利益	3,412		
（うち当期総利益）	(3,412)		
利益剰余金合計		40,763	
純資産合計			342,366
負債純資産合計			480,228

（注１）　本学が有している土地及び建物の一部を国立大学財務・経営センター長期借入金（11,037百万円）の担保に供しております。

（注２）　当該事業年度末における債務保証の総額は6,561百万円であります。

（注３）　運営費交付金から充当されるべき賞与の見積額は2,538百万円であります。

（注４）　運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は29,167百万円であります。

（注５）　減損会計の適用については、以下のとおりであります。

減損を認識した固定資産に関する事項

⑴　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要（単位：百万円）

減損を認識した固定資産	用　途	場　所	種　類	帳簿価額（H26年度末帳簿価額）
宮山外国人教師宿舎Ａ棟	教職員宿舎	豊中市宮山町	建物・附属設備	3
宮山外国人教師宿舎Ｂ棟	教職員宿舎	豊中市宮山町	建物・附属設備・構築物	3
宮山外国人教師宿舎Ｃ棟	教職員宿舎	豊中市宮山町	建物・附属設備	2

⑵　減損の認識に至った経緯

宮山外国人教師宿舎Ａ棟、Ｂ棟及びＣ棟は、本学の教職員宿舎として保有し、教職員の福利厚生に資する役割を有しております。しかしながら耐震基準を満たしていないこと並びに施設及び設備の老朽化等を総合的に勘案し、平成27年３月31日以降使用しないということを決定しました。よって、減損会計基準「第４　減損の認識」の１の⑶に該当するため、減損を認識するに至りました。

⑶　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳　（単位：百万円）

減損を認識した固定資産	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額
宮山外国人教師宿舎Ａ棟	0	2
宮山外国人教師宿舎Ｂ棟	0	2
宮山外国人教師宿舎Ｃ棟	0	2

⑷　回収可能サービス価額の算出方法の概要

回収可能サービス価額は、宿舎廃止後は売払いを目的としているため、正味売却価額により測定しており、正味売却価額は市場価格に基づいて算出しております。

減損の兆候が認められた固定資産に関する事項

⑴　減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要　（単位：百万円）

減損の兆候が認められた固定資産	用　途	場　所	種　類	帳簿価額（H26年度末帳簿価額）
桜の町宿舎	教職員宿舎	豊中市桜の町	建物・構築物	19
職員会館（箕面）	教育研究	箕面市粟生間谷東	建物	7
共通研究棟（接合科学研究所）	教育研究	茨木市美穂ケ丘	建物・附属設備・構築物	280

⑵　認められた減損の兆候の概要

上記固定資産における稼働率が50％以上低下しているため、減損の兆候が認められております。

⑶　減損の兆候の有無に際して複数の固定資産を一体として判定した場合における当該資産の概要及び当該資産が一体としてそのサービスを提供するものと判定した理由

桜の町宿舎については、建物、受水槽及び土留等からなり、これらは建物と補完的な関係を有する建物附属設備及び構築物であるため、一体としてそのサービスを提供するものと判定しております。